

引原ダム再生事業

News:「ダム再生通信」の創刊決定

— ダムが新しく生まれ変わるプロセスをお届けします —



引原ダムは、昭和33年に完成した重力式コンクリートダムです。

「ダム再生通信」について

引原ダムの再整備が本格的に始まります。私たちは、この事業の進捗や舞台裏、現場の工夫などを「ダム再生通信」として毎月お届けします。地域の方々や関係者の方々と、引原ダム再生のストーリーを共有していきますので楽しみに!

地域の安全を守るが、私たちの仕事です。



***** ダム再生の豆知識 *****

今回の再整備では、ダムの本体(堤体)の約2m嵩上げや放流設備の改良・新設を実施します。これは、より多くの水をためられるようにすることで、洪水時の安全性を高め、渇水時にも安定して水を供給するためのものです。



引原ダムの再生計画について

引原ダム再生事業では、老朽化した設備の更新に加え、近年の豪雨の頻発・激甚化を踏まえた引原ダムの洪水調節機能(洪水調節容量の拡大や(予備)放流能力の拡充)の強化に取り組んでいます。

ダムを再生することで、治水安全度のさらなる向上を図り、損保川流域の浸水被害の低減が可能となります。

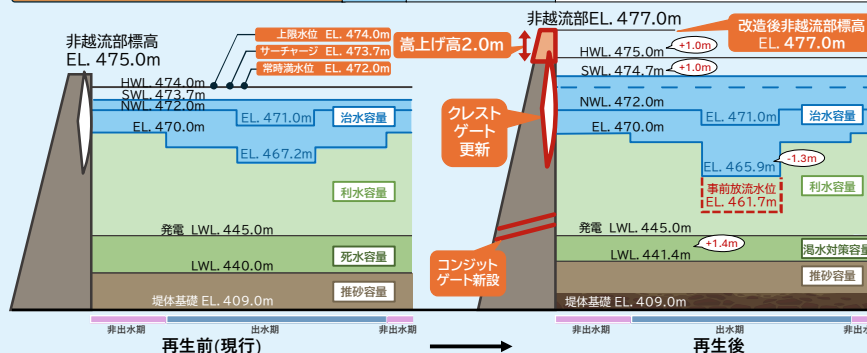
また、これらの整備により、放流能力不足など、現行の基準に準拠したダムになります。



— 一級河川
— 二級河川



区分	項目	ダム再生後(案)
ダム	目的	(洪水調節機能強化)
	天端標高	標高 477.0m(+2.0m)
	堤高	68.0m(+2.0m)
	設計洪水位 [HWL]	標高 475.0m(+1.0m)
	サーチャージ水位 [SWL]	標高 474.7m(+1.0m)
	予備放流水位	[7/1~9/30]標高 465.9m(-1.3m)
	事前放流水位	[7/1~9/30]標高 462.5m(-1.5m)
	計画堆砂位	標高 441.4m(+1.4m)
	計画堆砂量	2,000 千m3 (ダム再生後100年分)
	洪水調節容量	<洪水期>7,380 千m3 (+1,900 千m3)
貯水池	渇水対策容量	1,000 千m3 (+1,000 千m3)
	放流設備	放流設備
	放流設備	放流設備
	放流設備	放流設備
放流設備	放流設備	放流設備
	放流設備	放流設備
	放流設備	放流設備



工事の工程

※現場の状況により工期延伸する可能性があります。

区分	年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
準備工								
ヤード造成								
仮設備								
減勢工・導流壁・河川取付部								
コンジット放流設備								
クレストゲート								
堤体嵩上げ								
管理設備等								

治水容量を拡大し、暮らしの安全度を格段に向上!

再生事業前



損保川流域の水害リスクを大幅軽減

引原ダム再生事業の主要工事計画概要

主要工事	概略諸元	備考
堤体嵩上げ	2 m 嵩上げ	
放流設備新設	放流管(φ3,400 mm)、引原ラジアルゲート(幅2.30 m×高さ2.30 m×1 門)	放流能力 100 m/s
減勢工改造	幅25.5 m×延長98 m	
クレストゲート更新	幅7.0 m×2 門	
管理設備更新	管理所移設、管理設備更新	
国道29号/管理用道路付替	国道(左岸300 m)、管理道(右岸100 m)	

再生事業完了後

